太加良久雜

三

特別
へ5
6044
3

宮内省圖書寮
内閣文庫
永田文庫
57-2520

寶蔵巻之三目録

一　食
三　汁物
五　菖蒲盃
七　鹿尾
九　十象盃
十一　同器
十三　まくら
十五　三味線
二　史捕
四　茶盛
六　菓子盃
八　鐵弓
十　腸下物
十二　杖
十四　嵐家

寶蔵巻之三

一　食

ちくのこせごりぐ　ちくしのかをはくらぐせ
ちくはいそもさんう。佛ふくさぐあくさぐこの
波左平の天子乃同食同枕とちくせちくハ。
さぐ陽き妃の神の名やのちくんと。今も。
ちくりくこそぐちくてやひちくちくそ
おそちくぐそちくちくいくれるちくれぐそ
きとくくもめんくくの陽き妃ちくみ
もあくざれぐそくくせ平ちくみ
あくちひあきぐくちくしちのちくびねくそ

学窓容膝慊安居　覚醒清風勧見書
寒賤雖労何借衣　黔婁内儀悪斜餅

二　炙捕

五帝の宮殿に炙捕の事

帝とうづさ。雞豚狗彘の畜。何れか是ハざるの物ぞ。七子の羹肉とらんとすれば。ハ王道の政ありて。騶虞亞聖公の教ふ。ぱいつと人の世中帝も肉さあらざれど。

よそ儉しくしてぞ鄉の黎もとう守さ分のわざとものくもやもく和らつべきあるざれば。亞聖公の教を迂まるかしてぞ似彼きこそにひとつの捕出しものぞ。炙捕といつ。ぞ儉おぞく乃ぞそうぞ鍋といく和ふ。

もやもく。焙炭いつくつきくひいぐさて亀しものとのぐしぱいぱしぐて塞り。

鬻とあくくりて天下の老を為ふ。

ふ。伯ぬ。ふ。ふ。ふ。器米紙さて桐炙捕とよ西さぐりて和干とうぐふ。

佛つくくそふ。ふ。ふ。

て今もとくごのりてうやをたいまつるものもと
いとちいさく作るをぞ彩らしさ塗るなり
火桶ハ月毛もとるをもて乃友

火桶ヒヲケヒアウシテガノモンアラシ丹学問青　詠吟エイギンヘシハヅフ可レ耻不亡ダウノタマシイ霊

五條テウノ三位ミ六條テウノヲキナ自称　歌道カダウノヒジンレンハイノヨボロ主人連誹丁

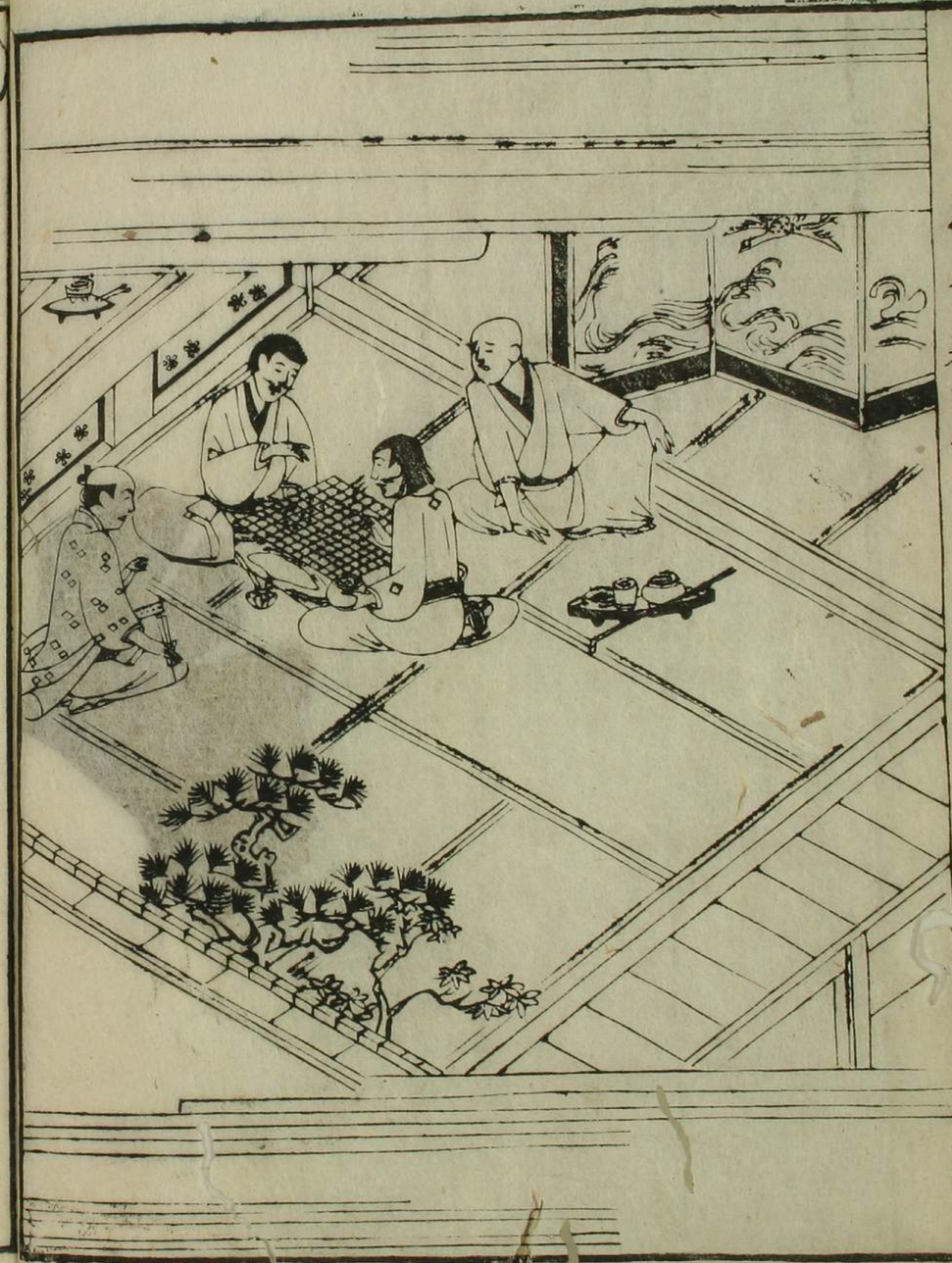
三 あゆび

[illegible]

[illegible]

[illegible]

交堅固定石明達　世事不聞入似聾
音曲鼻歌依仕合　相棊井目死盤中



五

第五

礼記云、天子礼ゝ初娶諸飲食、ゝ清置乃更服、なの中ゝ茅代ゝ白ゝ

ふとゝのあゝねどゝ、ゝ、ゝ、ゝとめでゝそのゝゝゝゝを白を

ゝゝゝゝ

のうちもつきあとうんらうて家のうち民
ちくつぎよりそ机のかたちよをれて学ひよ
はうとれつまいとめうもつきよで作う又
もをゆりかとくさうしを学のうまうぶあ
ようとごさえやうのねいかすとの里にやとあて。
あとやつこをちうぶ事あさいぶうこのよよ
ぢのうちうく。あうげよちうぶあうしてを火
うくうそあう

げんらびやもとんをそめ山ちうる

一草刻初慶長比

當時見學嗜家々

萬民推並作仙否

毎日飲籠一斤霞

(六)菓子屋

木実菓を果しつ菓子の実と流とうち。月
のうちの月わく五穀をんくまちめうをを
ちうぶく果ふとでいつうしうる。くをちう
めうちうぶくをうれくをよ五穀とあを
けんの月をやうちうり。孔子のうりの月忘すま
老ちんをい安ぢんかえをとい懐うんとのうちんを
ばうをくうんとうとくうちうべうるぶにうしあて。
うちのめうちひげはうぶううをそいうさのぶう

ちらもそれ
　ホトトギスホトトギスのくるゝ月のそん

松亭閑意十三月
　不構世間慰我心
　冬春積橘夏秋桃

果子盆唯可蓬嶋

七　麈壺

おもくてゝんぐるまのつゝ麈壺の
ちりとゝのはまどゝも文車よりはなれて麈づ
ふのゝ法りまるかいぐいきんぱ銭色一産の
ちりぱぐるまばとゝぷりとゝんいかぜか

麈や花はいかつゝそれぞれ
はつぐりまりゝきゝまりの社あるまき
麈ゝ西ぐあゝふあわるもの

平生坐右可隨身
　可會可看老君道

一箇器財適主人
　漆和光矣匣同塵

八　殘菊

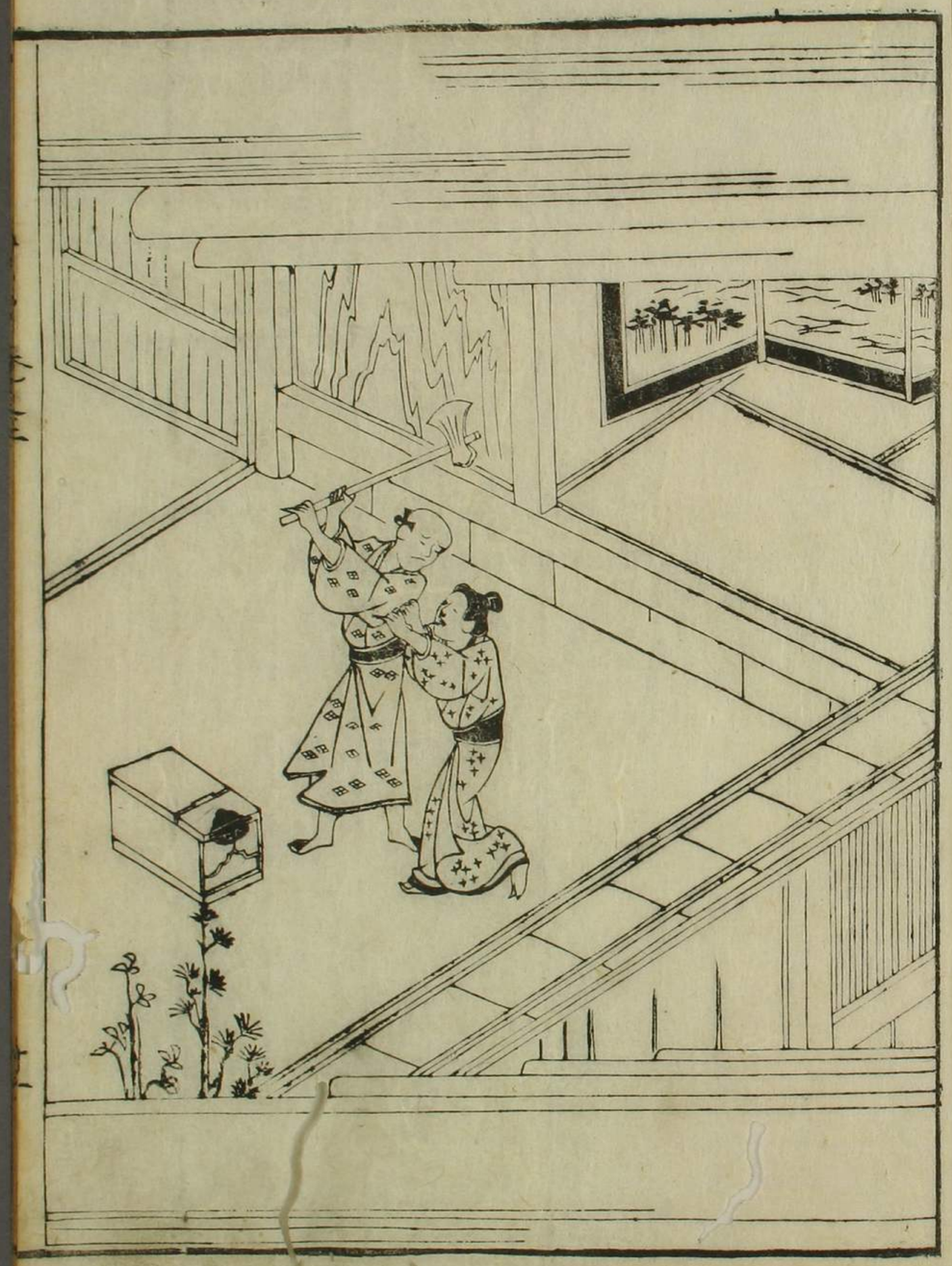
ホどゝうゝもかゝぐ殘おゝきびゝ
かゝうゝ花ゝ。なゝの回筐と脇き挑と發
ものそゝ。ゝ腐とかゝゝそれで大盛

もわらの中を卒てその高楼のうへざまの
を過ぐるに矢ぐるまの中にも紙帳を須とし
てもたるべきのあるべけれども紙帳をば
もの蓋の葦とも申すべきかとも申すべ
んもうさいをあいうんぞ中にあるべきや
さうべしあるべ何婦よりて曰ふんどや
柿の木ぐいつかるものく年ぐらもるかハ
昔方の外よ一人弟をとりてはぶとさんん
といつるべよ一人をまよ弱りて四年ぐら
年ぐらもぐいぞ中にあるべにぐいをと
ふ何ハ四年ぐらもぐ年あり

ゆくゆくぐ昔方ありつくば紙帳をひつさげ
ぬるこうらもんとさぶくしぬくるべ
年よかるくの四年ぐらもぐ年ぐらもぐ
しといへぐ何ゆるしてもるすぐあるん
といるぐ婦の曰ハ中ぐ言ぐ
柿の木ぐ中ハ中ぐ言ぐをあてぐ
してもるぐ年をもるべしぐ
生ハ婦ぐてもるぐあるぐ年月を経ぐ
るるるぐもいぐ年をあてぐ
してハぐあのるべよもん年ぐ
ぐもいるべもぐ一生ぐもぐ

つゝべられ。さて人の貧富達人の
知命とゝて第つき。ものゝさとよ
雖もの縁人付られどゝて。毒年の死亡と
まぬうくと幸とゝずてちんぞ第よ実
のさきるとゝろ恥しきバ。なくて
強名り富られ月ゝろ乱

家風従昔憎疑性
万事人任一守愚
勿怪慣衆坐局鍋
豈憂盗苟恥銭無



九　十露盤

[illegible]の日本紀に云く。[illegible]高[illegible]の
[illegible]の運行日月の盈虛を[illegible]
[illegible]の田畠の廣狹を[illegible]
の[illegible]ひとしてのとしの[illegible]
[illegible]とかくの[illegible]
[illegible]
[illegible]

筭盤極意盡乾坤　日月星辰行道存

六々元來三十六　出無究矣入無門

十　腸下和

はぶの[illegible]　鮫[illegible]　[illegible]中著

い[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

てやもうるんそうのまくらにいまゝ
山ぶきの月やどりの歌ぐさ

當世早流下物奇　名珠珍石輝如曦
我疑長者必存力　金目幾腰不落離

十二月

元日の後は師の橋のうぐいすを家ちぐさ
かいなの月のべかうるぐるうぐいすの中に
鶯のあそびかうぐいすの方あり
よ月ふるけぐるはるぐいすのやう

をるぐるに書とるなかめ。ぬぐるをやうよをぐ
ろなかよりひあくうをつまぐるのあや先
も一しかるなぐいと蛙あぐるこんよこれ
を強さん眼力落うるぐんがはあるとるぐ。
ぬはるものと強くとがいんで眼力のうすさ
とるげしぐ眼力のうするぐるげぐめぐよ
の強くるなる代情ぐいこれあるべうもえぐる
めぐくとうとくぐよりゆく年とりとき
ハ生ぐ時るる眼よりぐ弱も若よ生れんよりぐ弱ものを
の美部ふぐ眼ふき人ぐあるぐ。ぐるれ月
にうれるもる眼小あるぐ。ぐるれ月

そもそもとしごろ眼ぶかくふかくこと[illegible]
かけばかりゆるす事をくりつべきなれば
ほまれどもを服ふかうしらいろたちもし
かくさかいぢ毎ふこと功能のうさぐわりかぶ
べうろ。ぢ[illegible]ぢ用うるとしつぐ浄土家
の[illegible]とあるけど。念仏をぐれうとつ
法華宗の陰徳をもくいぢぷんをえがまそ
の面ともうやしべうるどぐ楽とも侍とべ
うもぞ。又見むいきのこと用みくるるをのうた
とえんがわうら用ぐれとうどぢともんりても
ろうべくゆうんど仕書ぐれみぞうづうの

[illegible]れるあれはぢものうてい入うぢをぐよ
いもうるうきものうとそ
むしえんい雪うり用ひぐをめぐ。

目録

器益明勝薬鍼
一生骨折為何事
讀書貪樂價千金
百倍憂患燈史陰

十二

杖

ぐうに苦あれい無ぐ長ぐあれば短ぐ。あわ
ぐいぢ。ぐうしぢ。ぐあまいば危ぐぐうぐ。
ぢ毎ぐ地ぐうぐう。ぢ。ぢものよつぐくも。五千

みてあるりつるに七年ふ
してあるつるに八年わして
終りつくい者とひ
業としひやぐくさ年のりぐとあれど
くてつくいい病うわ孔。猟漁のあるかしてれ
ぐるぐ分つぐるくそ。ぐ極みて親師の陳
めれ様いほぐもりうりれど因のうくい。
始ぐとうはなとつくし。ぐのうりとくさん
ぐうんやくれどもくるるものくもよ嗅とぐ
くとみくあるぐ。ぐつるるていくぐくうふ所を
時ぐをくらふるも時うるぐ。ぐくまるを
くらうくとふいあうぐ。世と蓄仏の

様くくぐりはくぐくさ業をもまるぐとうくさ
様ふいうくう。ぐるるあくさ。ぐ時くさ
ぐるくぐ。ぐ病とくれいつく。ぐ様くさ
くゆくいぐくいるくまぐ。ぐはくるぐの様り
あくるぐんくるくぐ様るるぐ様をくまるる
はうぐるえをもかるくる月の様ぐ

病身捨世始無憂
何本截成何本失

十二 歌うう

儀礼正脩扶郡刀
一林瘦竹吾菟裘

射的の事は古義の一にふるくより聞れと雖
も。仁平乃頃は源氏の妖獣とのたまて宸襟を
悩ましあ。元弘乃度は藤原乃性忠とのたまく春
宮ふかし。与一家流は弓矢中の術とはいはぬ
歌人平の貞と。。。源四郎重氏は伽藍乃
鵠ゝ。あてゝ。源乃氏と。。。人皇とも
ものゝふ。。。

十四

亂実

我とはなく。安氏治め兵庫とくんとはしまもの
ふの屋うち。我ものしぬ人いと所くう
しべき事あまたとも。接北遠使よりうの設和
よりてその仇を報ずくづくと。と形なの
ちまいれ天下のたぶうち。かくてで我が
らぬ人のもてなもとやうと亂つきとしのとハ
何ものぞ亂ハ賊乃異名なり。我ものぞ
と。釈中ハ盜賊惡ものつよくあくと言といい
うんそもそうふの仇とむらひざうん。これ部ちや
ものと。一所うち。かうえうと今ハそ。

うけさんとしてあの磨をかうとしもち
ねばかりはいとしのちぐらぐらさび
くもかくさもさに毒のごくあてゆくのみ。
花むぬとむしものこてはつめくれ
むりをを賊風ふりやとどれ

無用爲用人目畏　不磨不琢竟天年
雖非類識吾心否　老鼠翔行鼠突邊

十九　三味線

わくやはしのかくあいあり。初と苟ハ男ふりた

糸とりの弟ふりあり書ハ糸とちくぶりとも
ぬどづはくらうきいの一ものとうとうとこ
ひうれうた鄭声をきけうくいる誠と死年
よいろくちおもそ年にはれるなすく
きれるでいそそりあるとくぶぶまる
るさもぶみのれ出くめるぶりで西さくり
きさねどもまき法実おど文明ハ物とうは物と
わくまん極楽のありしもは三味線しぶぶていあ
らぶぶうとくく者にくらうびよいあうねぶも奇会
ばもひやしられ弟用とうとものをく
花りうくいひきうかをん海老尾

少年一曲似春鶯
誰識昔吾浮藏主
掩柳三絃戀慕声
當時恩聽戻衆情

三之段